

令和4年度 学校評価報告書 実施結果

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月16日実施)	総合評価(3月1日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①新学習指導要領への移行と、インクルーシブ教育実践推進校としての取り組みを主軸に、系統的な教育課程を構築する。</p> <p>②「主体的・対話的な深い学び」を追求した授業実践を組織的に積み重ね、「自ら学び続ける生徒」を育てる。</p>	<p>①新学習指導要領開始に伴い、指導と評価の一体化を意識し、教育実践に反映させる。また、多様な生徒の実態を踏まえた教育課程を構築する。</p> <p>②ICTサイクルによる授業改善や、「シチズンシップ教育」についての研究、ICTを活かした授業実践により、生徒の主体的な学びの力を育む。</p>	<p>①単元の指導と評価の計画の作成・修正を行い、授業改善を図る。各講座の上限人数の調整や、ITの適切な配置を行う。</p> <p>②研究開発Gと協同し、公開授業研究日の設定等により授業の振り返りを行い、積極的な授業改善に努める。また、自習室・質問スペースの充実を図る。</p>	<p>①1年間の単元の指導と評価の計画を作成・実践できたか。教科代表者会議で各教科の意見を集約し、適切な調整ができたか。</p> <p>②ICT活用促進、公開授業研究等を実施し、主体的・対話的な深い学びにつながる授業改善ができたか。また、生徒による授業評価の質問項目7が3.0以上になったか。</p>	<p>①定期的に作成状況を確認し、それを教科・科目間や個々の教員が振り返りできるように冊子とデータで配置した。また、各教科で生徒の実態を集約し、更なる適切なITの配置に繋げている。</p> <p>②各学年でのICTの活用状況を把握するため教員対象のアンケートを実施したり、一人一台端末の運用推進を呼びかけたりすることにより、主体的な深い学びに繋げている。</p>	<p>①年間を見通して単元の指導と評価の計画を作成できるように、スケジュールを可視化する。学校全体のバランスを考えた配置を行う。</p> <p>②活用状況の向上を更に高め、授業深度へ繋げる使用法を提案する。また、各教科で取り組みを考えられる機会を設定する。</p>	<p>・1人1台端末の運用は素晴らしいが、各生徒、各教員の理解、スキルの差をどう改善するかが課題である。</p> <p>・生徒による授業評価・項目7が、3.0以上の継続を図って欲しい。</p> <p>・「主体的・対話的で深い学び」の実現、学習活動・学校行事・部活動等の実施の工夫を継続して欲しい。</p> <p>・社会の中で生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行う「授業改善」と教員の「資質向上」を継続して取り組んで欲しい。</p>	<p>①カリキュラムWGを立ち上げ、本校新カリキュラムの再考を行った。今年度実施済みである1学年や教科担当者からの意見を集約し、適切な講座の設置案を練ることができた。大学入学共通テストを見据えて、現1年生の3年次カリキュラムの再構築が急務である。</p> <p>②「シチズンシップ教育」研究指定校として、教科横断的に取り組み、シビックプライドアンケートやICTなどを活用しながら「神奈川」をテーマにした研究を推進した。授業評価アンケート項目7【授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。】は3.1であった。</p> <p>・研究開発G社会生活担当チームが神奈川県教育委員会職員功績賞を受賞した。</p>	<p>①カリキュラムWGを中心に具体的な目標を決め、それを達成するための方策を立てる。本校は指定校推薦での進学が主流であるが、適切なカリキュラムを構築し、数年後を見据えながら大学入試共通テスト受験者数の増加を図る。また、主体的・対話的で深い学び」を実現するため、知識の伝達・暗記ではなく、「問いをたて、思考し、他者にわかりやすく伝える」場を増やしていく必要がある。</p> <p>②学ぶことそのものを目的とするのではなく、学校で経験した様々な学びをその後の生活に活かす力を育てなければならない。そのためにも、教員自らが積極的に自己研鑽に努め、教員の「資質向上」に取り組むたい。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①安全・安心な学校生活を保障するとともに、すべての教育活動を「支援」の観点に基づいて検証・改善していく。</p> <p>②生徒の自己表現・自己実現の機会を充実させ、協働と成功体験の積み重ねによる豊かな人間性を育む。</p>	<p>①規範意識の醸成を図るとともに、授業を大切にできる態度を育成する。また、支援を必要とする生徒のため、教育相談体制を充実させる。</p> <p>②学校行事において、生徒が主体的に企画・運営を行うようにする。また、感染症予防の意識向上を、生徒活動の諸機会をとらえて徹底する。</p>	<p>①正装日を設定して、正装指導を行う。ICTを用いた生徒自身による健康観察や、SC利用促進を図る。</p> <p>②生徒の発想を引き出す話し合いの場を設定し、運営の主体を生徒に置く。感染症予防の観点を提示し、Withコロナの学校行事を定着する。</p>	<p>①正装日における正装指導が定着したか。毎日の健康観察の徹底やSCの利用促進を図れたか。</p> <p>②生徒の意見を引き出す場を設定できたか。生徒主体の学校行事運営ができたか。また、各行事の事後アンケートで生徒の満足度が80%以上になったか。</p>	<p>①正装日に関して、事前の声掛けを行うことにより、生徒自身の意識は高まった。感染防止対策については、しっかり行うことができているため、継続していく。</p> <p>②コロナ禍での学校行事の開催を実現した。実施後の感染拡大も認められず、感染対策も徹底できたといえる。</p>	<p>①正装日に関しては成果を感じるが、通常日の服装に関するマナーも伝えることも必要と感じる。感染防止は、今後継続。また、心の問題を抱える生徒が増加しているため、SCの利用や外部機関との協力を一層深めていきたい。</p> <p>②感染状況の影響で計画を大きく変更する必要があり、生徒との話し合いの場の設定が十分取ることができなかつた。</p>	<p>・「正装日」の取組で服装だけでなくマナーの「on・off」の違いも意識させて欲しい。</p> <p>・規範意識の醸成、授業を大切にできる態度の育成、教育相談体制の充実を進めて欲しい。</p> <p>・自己指導能力を育み地域高校らしい「人間力」の育成を図って欲しい。</p> <p>・標準服をスラックス、希望者をスカートすることは検討できるか。</p> <p>・可能な限り感染防止対策をとり、学校行事を中止することなく取り組んで欲しい。</p> <p>・部活動の参加・加入率を高めるとともに「元気な学校づくり」につなげて欲しい。</p>	<p>①コロナ禍において安心・安全な学校生活について意識を高めることができた。今後は生徒自身による判断が大切になる為、更なる意識向上に努めたい。生徒指導の観点では指導と支援の両面から考えて対応することができた。正装日に関しては、教員の声掛けにより生徒が意識を高め行動することができるようになってきた。継続して定着を図りたい。</p> <p>②体育祭において、応援団での主体的な取り組みとすべての生徒が活躍する行事運営が認められ、県教育委員会より表彰されたことにより、生徒たちの達成感や自己肯定感の向上に繋がった。各行事での生徒アンケート結果では「行事の参加に充実感があり、満足している」に回答した生徒は全体の88% (体育祭)、90% (文化祭) となった。限られた準備期間の中で、生徒間の話し合いの場を設定していくことが課題である。</p>	<p>①コロナ対策に関しては、状況の変化を見極め、落ち着いて対応することを心がける。指導と支援に関して、しっかりと個を見ることにバランスを考えた指導支援を行いたい。また、学校生活全体を通して様々な場面、個々によって対応が難しい事案が多くなってきているので、事前指導、事前支援に焦点をあてて考えたい。</p> <p>②年間を通じた見通しを持ち、準備から生徒が主体的に計画し、作り上げていくロードマップを提示していく。部活動や行事など学校の中で生徒が活躍し、成功体験を積み重ねる機会を多く設定していきたい。</p>
3 進路指導・支援	<p>①「キャリア教育」の視点に基づいた進路支援</p>	<p>①主体的に学習に取り組み、未来設計を築いて</p>	<p>①委員会活動や学校行事・インターンシップな</p>	<p>①主体的な活動の場を設定できたか。</p>	<p>①インターンシップに一般生、1年3名、2年4名、</p>	<p>①更に、様々な活動の案内などを掲示、クラスルーム</p>	<p>・経験・体験の機会が少なくなったので、他機関との連携を増やしてい</p>	<p>①インターンシップの参加を促し事前・事後指導を行ない教育センターで実施した「かながわ</p>	<p>①ICT等の活用も積極的に取り入れ、大学や専門学校を調べ進路選択の幅を広げていく工夫を</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月16日実施)	総合評価(3月1日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		とカリキュラムマネジメントに取り組む。  ②系統的な進路支援体制の構築とともに、個別支援を充実させ、一人ひとりのニーズにかなった進路実現を目指す。	いく力を身に付ける。  ②一人ひとりの進路実現に向けた計画的な学習を支援する。	①主体的な活動の充実を図る。  ②外部プログラムを自主的に活用し、面談を通して学習の成果・達成感を確認していく。また、大学進学率をあげていく。	②有効な活用方法を提供し、情報を生徒に発信できたか。昨年度の女子の大学進学率37.4%を40%以上にできたか。	3年1名、特別募集生1年21名、2年17名、3年11名、合計49名が参加した。 ②1・2年で外部プログラムを活用し、個別最適化の学びのために家庭学習の充実を図った。1・2学期の初めに全学年対象に外部模試を実施し学習の成果を確認した。進路選択に向けて今後も継続していく。	等を活用し、幅広く生徒へ情報を提供していきたい。  ②進路ガイダンスの内容を充実させ、大学短大、医療系看護、公務員希望者を対象に、外部講師によるガイダンスを実施した。生徒たちが自己実現に向けた進路選択ができるよう引き続き有効な情報提供・適切な支援をしていく。	く。 ・生徒個人の適正と嗜好をどう把握し進路に活かせるかが課題。 ・大学見学ツアーの実施の検討をして欲しい。 ・進路希望者に対する情報提供や講習体制を充実させる必要がある。 ・進路指導担当部が中心となり、キャリア教育の視点で3年間のトータルデザインを確立が必要と感じた。	キャリア教育体験発表」で本校生徒が選出された。保育系、看護医療系、公務員の希望者を対象に講師を招いて進路説明会を企画した結果、1・2年39名の生徒が参加した。神奈川大学、日本工学院専門学校へ希望者対象の見学ツアーでは、1・2年16名の生徒が参加した。 ②進学希望者の個別面接指導、総合型入試のプレゼンテーション指導等を実施し、女子の大学の進学率は <b>40%</b> となった。課題として、検定など個々のキャリアを生かした進路選択を含め3年間を見据えたキャリアデザインの確立を検討していく。	検討する。 ・キャリアガイダンスや分野別進路説明会に参加した後の継続的な指導を構築し3年間を見据えたキャリアデザインを確立する。  ②1・2年で実施している学習プログラムの活用を積極的に促し学習習慣の確立と基礎学力の維持向上を図る。 ・キャリアパスポートを活用し自分自身を知り自信を持って進路選択ができるようにする。
4	地域等との協働	①地域・保護者への情報提供を充実させ、学校運営協議会を通じた協働的・双方向的な学校づくりを推進する。 ②地域への貢献と、地域資源の活用を両立させ、地域とともに育ち、地域とともに伸びる学校を目指す。	①HPの定期更新を行い、保護者を含めた地域全体に向けての情報発信を充実させ、学校の取り組みや生徒の活動を周知する。 ②コロナ禍で途絶えた「地域との協働事業」復活に向けて始動する。また、オンラインも併用し、地域協働の機会を拡充していく。	①部活動などのHP更新頻度の増加、保護者向けプリントをネット閲覧可能にする。学校説明会等の動画での配信を行う。 ②コロナ禍でも無理なく行える協働活動を、地域・教員だけでなく、生徒会を中心とした生徒の意見も含めた、協働活動を計画・立案していく。	①HPを30回以上更新することができたか。可能な限り保護者向けプリントを配信できたか。動画作成が行えたか。 ②コロナ禍を踏まえた上での新しい形の地域との協働活動を計画できたか。	①HPの更新回数は、現時点で22回である。家庭科等の実習、進路学習、特別授業の様子、部活動紹介を掲載している。  ②期末テスト最終日に複数の部活動で地域清掃を実施した。今後の地域との協働事業として、「地域連携と防災活動」を連動を計画画中である。	①保護者向けの配信実施回数が少なく、行事予定が中心となった。今後配信できるものを増やす方向である。また、学校説明会動画をHPに掲載予定である。  ②さまざまな災害が増加している現代に沿った「地域と協働した防災活動」を具体的に計画化していく。	・地域と学校で行事等の情報を交換して無理のない生徒の参加、生徒の考え方を地域に取り入れて欲しい。 ・中学校への出張授業の実施、生徒による中学校訪問などの新しい企画を考察して欲しい。 ・ホームページの新たな活用方法を工夫・検討し、更新回数、閲覧者の増加を目指して欲しい。 ・生徒が登下校の際に地域の情報を目にできるような工夫が必要。	①HP更新回数は、 <b>50回</b> を超え情報発信を充実させ、実習等の授業や総合的な探求の時間での様子、部活動の紹介を掲載した。また、学校説明会・合格者説明会の動画配信を行った。 ②片倉町自治会より、通学路に設置していただいた防犯カメラの点検・確認など協働活動を実施した。また、片倉町駅に生徒作品の展示や活動報告の掲示を行い、地域との間接的な連携を行った。1月には、上菅田中学校にて出張学校説明会に参加し、本校の特色、取組みの説明を行った。	①情報更新がされていない内容の再確認を行い、必要があれば加筆・修正を行い、HPを充実させていく。 ・保護者向けの配信については、あまり進まなかったもので、次年度は積極的に進めていきたい。 ②感染症対策などに十分配慮しながら、地域清掃や「地域と連携した防災活動」の体制づくりを慎重に進めていきたい。また、災害時に「高校生が地域でできること」を総合的な探求の時間を使い、生徒自らが考え、行動できるように取り組んでいきたい。
5	学校管理 学校運営	①UDLの観点に基づいた検証を全教育活動について行い、すべての生徒にとって学びやすい環境を整えていく。 ②「スクラップ&ビルド」の観点で業務を見直し、「働き方改革」を新たな創造に結びつける。	①UDLの観点に基づいた授業づくり、環境づくりを行い、すべての生徒にとって安全・安心な学習環境を検討・検証する。  ②教員の働き方改革を推進するため、教員が健康で働きやすい職場づくりを進める。また、不祥事防止について教員の意識を高める。	①無線ネットワーク環境の強化、特別教室へのICT機器の設置(常設)、校内ピクトグラムの表示、自習環境の充実を図る。  ②業務内容・担当を見直し、仕事の不公平感を是正する。情報共有・複数対応の徹底をし、不祥事を未然に防ぐ。	①UDLの観点に基づいた授業づくり・環境づくりができたか。また、生徒による授業評価の質問項目8が3.2以上になったか。 ②業務の負担を分散したことで、余力を他の教育活動等に活用することができたか。情報共有ができていないか教員間で定期的に確認する。	①各HR教室全てにアクセスポイントを設置した。各フロアのホワイトボードを増設し、UDLの観点に基づいた情報発信ができるよう整備した。前期生徒による授業評価の質問項目8は3.3であった。 ②企画会議後、Gリーダー間での業務内容・担当見直しについて情報交換を行っている。	①引き続きすべての生徒にとって安全・安心な学習環境を整備していく。また、後期生徒による授業評価も目標を達成できるよう授業改善を推進していく。  ②入選後に来年度に向けて具体的な業務・担当見直し案の会議を作成予定。	・若手職員、ミドルリーダーの育成を進めて欲しい。 ・組織的・継続的な人材育成の確立。 ・ハラスメントのない同僚性の高い職場環境の構築を目指して欲しい。 ・人種・宗教も含めたUDLを進めて欲しい。 ・教職員の意識改革・不祥事防止を徹底して欲しい。	①すべての学年にリソースルームが設置され、誰にとっても居場所となる空間が整備された。また、校内ピクトグラムの表示やフロントゼロ活動など、UDLの観点に基づいた環境づくりを推進し、生徒にとって安全・安心な学習環境を整えるため、生徒用更衣室を設置した。生徒による授業評価の質問項目8は <b>3.1</b> であった。教職員の意識改革が課題である。 ②企画会議後に、Gリーダー間で定期的に情報交換、話し合いを行った。ワーキンググループの在り方など、さまざまな問題点が挙げられたため、今後、具体的な改善案を作成、提案していく予定である。	①生徒による授業評価が下がった原因として、授業が進むにつれて内容が難しくなることや、進路先が決まった3年生のモチベーション低下などが考えられる。今後もわかりやすい丁寧な指導を実践していくと同時に、生徒にも計画的に家庭学習をするように指導を行っていく。  ②業務負担の平準化、余裕のある仕事量が事故防止およびハラスメント防止につながると考える。また、フルタイムではない職員の業務分担をどのようにするのかも今後、検討していく。